

(5) 衣類棚は、介助者、患者が取り出しやすい位置に設ける。

〔おわりに〕

その施設の対象者、システム、介助者数によって、浴室、浴槽の広さ、型等が異ってくる。又病気の進行を考えると一つの浴槽だけを使用していると種々の問題がでてくるので、できれば2ヶの浴槽を中心に、洗い台、着脱室等を考慮した設備が能率的で患者も安楽な入浴ができると思われる。又、今後の課題とし、配置や動線を考慮した入浴設備を研究していきたいと思う。

5 | 入浴時の着脱介助と着脱室の改善

国立療養所医王病院

中山 緑

〔はじめに〕

当施設でも筋ジス共同研究「入浴に関する看護」と云う課題をもとに、入浴後に及ぼす影響を調査した結果、全般的に機能が向上し入浴は患児にとり気分も爽快であるという事がわかった。今後介助者の負担も軽減した上で入浴回数を増やし、快適な生活が送れる様にと、介助者の理想的人員や設備、機械の導入などについて検討してみた。簡単に解決される問題ではないので、とりあえず入浴時の着脱介助及着脱室の改善を行って見たので報告する。

〔改善内容〕

1. 入浴介助では、男子職員が抱きかかえに重点をおき、女子職員は清拭、洗髪に重点をおく様に心掛けた。
2. 着脱方法も、車椅子、電動車のまま浴槽近くまでいき、浴室内で脱衣を行い抱きかかえの移動距離を短縮した。
3. 2台の着脱台にキャスターを取り付けて着脱室と浴室間を移動させ、衣服の着脱を行う様改善した。したがって2台を交互に使用するため能率的であり、又着脱台が広く安定性もあるので、子供達も滑り落ちる不安もなく、介助者の負担も大巾に軽減された。写真1参照。
4. 着脱室の床面は、すべり止め用のゴムカーペットを一面に敷きつめたところ、見た目にも清潔であり車椅子の操作もスムーズに行える様になり、介助者も足を取られ転倒の危険もなくなった。写真2参照

写真1 着脱室と浴室間を移動している。

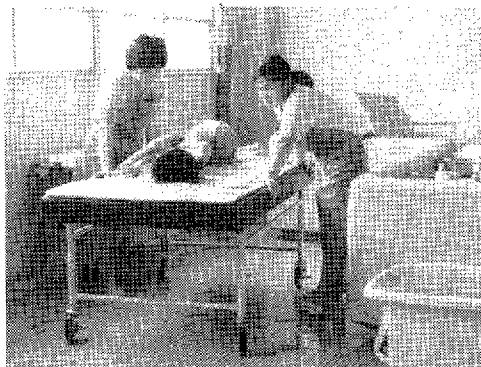
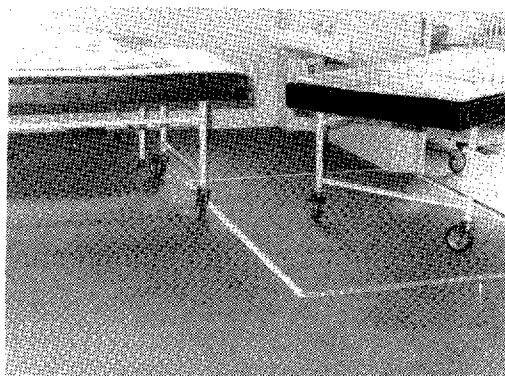


写真2 着脱室の床面にゴムカーペットを敷く。



〔むすび〕

待望の機械の導入も、明るい見通しがついたので、これが実現すれば入浴回数も増え、介助者の労力も緩和されるのではないかと、今から期待している。看護の面ではまだまだ改善事項も多々あると思うが、私達は子供達がより良い環境の中で、毎日の生活が快適に過せることを目標に工夫し改善していきたい。

52 浴場の改良を実施して

国立療養所再春荘

森下茂子 久末静代

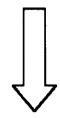
米丸瑞子

他筋ジス二病棟一同

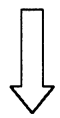
筋ジス病棟における入浴が、患者、職員、双方にとって、よりよいものとなるように、共同研究を行っている。その中で、私共も設備について、研究を重ね、実際に、浴場の一部改良を行い1年5ヶ月を経過した。改良前の問題点

1) 出入口が、ドア式で2ヶ所あり狭い。(写真1)

2) L字型の掘下げ式浴槽のため、床上で洗うために、介助者は中腰姿勢で負担がかかる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔はじめに〕

当施設でも筋ジス共同研究「入浴に関する看護」と云う課題をもとに、入浴後に及ぼす影響を調査した結果、全般的に機能が向上し入浴は患児にとり気分も爽快であるという事がわかった。今後介助者の負担も軽減した上で入浴回数を増やし、快適な生活が送れる様にと、介助者の理想的人員や設備、機械の導入などについて検討してみた。簡単に解決される問題ではないので、とりあえず入浴時の着脱介助及着脱室の改善を行って見たので報告する。